

授業名:運動の科学Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
清水 茂幸	一般	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	水 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 日本体育協会「公認スポーツ養成テキスト」を使用して、競技者育成プログラムの理念と指導法を身に付け、指導計画やトレーニング方法およびスポーツ傷害予防を習得する(レベルⅡ・Ⅲ)					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①スポーツ指導の基礎知識と指導方法を学ぶ。 ②トレーニングおよび傷害予防プログラムを習得する。 ③					目標達成 状況判断力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション		成績評価方法について、スポーツリーダーの説明 成績の算出方法、スポーツリーダー概要				
2	指導者の役割		スポーツ指導者の役割について、コーチング 望まれるスポーツ指導者像、コーチングの基本的な理論				
3	トレーニング論1		体力について、トレーニングの種類や進め方 体力の定義、トレーニングの原則について				
4	マシントレーニング1		マシンを使用したトレーニング実習 マシントレーニング実習				
5	トレーニング論2		スピードトレーニング、筋収縮の種類について 反応スピードや反復スピードを高めるトレーニング				
6	マシントレーニング2		マシンを使用したトレーニング実習 マシントレーニング実習				
7	スポーツと健康		健康の定義とスポーツ活動中に多いケガや病気 WHOにおける健康の定義、急性・慢性の傷病について				
8	マシントレーニング3		マシンを使用したトレーニング実習 マシントレーニング実習				
9	救急処置(CPR)		救急蘇生について 心肺蘇生法の手順				
10	CPR実践1		心肺蘇生法の実践、運搬方法 心肺蘇生法の手順を実践、実際に身体を運搬してみる				
11	三角巾法		三角巾の使用方法 三角巾を使用し各手技をやる				
12	CPR実践2		心肺蘇生法の実践、三角巾の使用方法 心肺蘇生の実施、三角巾固定				
13	スポーツと栄養		5大栄養素の役割 5大栄養素の各役割について				
14	CPR実践3		心肺蘇生法の実践 各環境条件を考慮した心肺蘇生法の実践				
15	まとめ		総復習をし、知識と技術の定着を図る				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	90%	受講態度	10%
					0%		0%
【教科書】日本体育協会「公認スポーツ指導者養成テキスト」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:解剖学Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2
山本 茂久	一般	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	金 2	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系および内分泌系を理解し、適切かつ合理的な施術を遂行できるようにするための正しい知識を習得する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①脈管系、消化器系、呼吸器系に属する器官の種類、構造と機能を学習する。 ②泌尿器系、生殖器系、内分泌系に属する器官の種類、構造と機能を学習する。 ③国家試験を視野に解剖学について学習する。					目標達成 問題解決力 忍耐力 基礎学力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	脈管系1		脈管系の種類、動静脈の構造			
2	脈管系2		心臓の構造と働き、心臓に分布する血管と神経刺激伝導系			
3	脈管系3		全身の動脈と静脈、リンパ管の構造と働き			
4	消化器系1		消化器の働き、種類と構造、口唇・口腔			
5	消化器系2		口腔腺、歯、舌、咽頭			
6	消化器系3		食道、胃、小腸、大腸			
7	消化器系4		肝臓と胆嚢、膵臓と腹膜、嚥下			
8	呼吸器系1		呼吸器の種類と分類 外鼻、鼻腔と副鼻腔、喉頭、気管と気管支			
9	呼吸器系2		肺、胸膜、縦隔			
10	泌尿器系1		泌尿器の種類と働き 腎臓の構造と働き			
11	泌尿器系2		尿管、膀胱、尿道			
12	生殖器系		男性生殖器および女性生殖器の構造と働き 子宮粘膜の周期的変化			
13	内分泌系1		内分泌系の働き、下垂体			
14	内分泌系2		甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、精巣、卵巣、胸腺			
15	まとめ		復習総復習と理解度を確認する。			
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	100%	0%
					0%	0%
【教科書】(社)全国柔道整復学校協会監修 解剖学 医歯薬出版						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名:解剖学実習

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2
山本 茂久 (実習担当者)	一般	高野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月～金	【授業形態・単位】	実習 1
【授業の概要】 人体について全身的な構造と機能についての知識を学びます。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 協調性の向上 目標達成	
【学習目標(到達目標)】 ①筋学・骨学・靭帯学、神経系のうち主要なものを対象として学びます。 ②人が生命を維持し活動していく欠かすことのできない循環系を学びます。 ③人が生命を維持し活動していく欠かすことのできない内臓の諸器官について位置と構造を学びます。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	解剖学オリエンテーション上肢No.1DVD		骨・関節・靭帯・筋。胸郭の構造・呼吸に関わる筋			
2	下肢1No.2DVD下肢2No.3DVD		骨・関節・靭帯・筋。胸郭の構造・呼吸に関わる筋			
3	体幹1No.4DVD体幹2No.5DVD		骨・関節・靭帯・筋。胸郭の構造・呼吸に関わる筋			
4	頭頸部1No.6DVD		頭頸部の支持と運動、顔面骨と頭蓋底			
5	頭頸部2No.7DVD		顔面筋と頭皮、脳とその周辺、頭頸部の神経および血管			
6	口腔・眼・耳No.8DVD		鼻腔咽頭とその周辺			
7	胸部の臓器・生殖器No.9DVD		心臓・肺・男性生殖器・女性生殖器			
8	腹部臓器No.10DVD		胃・小腸・大腸・肝臓・膵臓・脾臓・腹部血管・泌尿器			
9	解剖学実習講義 1		実習に必要な知識の習得			
10	解剖学実習講義 2		実習に必要な知識の習得			
11	解剖学実習 1		標本館見学1			
12	解剖学実習 2		標本館見学2			
13	解剖学実習 3		見学実習1			
14	解剖学実習 4		見学実習2			
15	解剖学実習 5		見学実習3			
期末試験	レポート提出		評価方法	レポート	100%	0%
					0%	0%
【教科書】						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

授業名:運動学(追加)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
清水 茂幸	一般	高野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	木 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 運動器疾患の構造と機能を理解し、整形外科的診断、治療法を理解する。骨折、脱臼、および神経、関節、脊椎、上肢、下肢の外傷、先天異常、骨軟部腫瘍、感染症、骨系統疾患、筋疾患、各関節脊椎の慢性・変性疾患について解説する。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①整形外科の基礎知識を習得すること。 ②臨床現場で遭遇する症候について鑑別診断できること。 ③国家試験に合格する知識をつけること。					目標達成 状況判断力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	運動学の目的		運動とは 運動学の領域と目的				
2	運動の表し方		運動行動の概念 運動の表示方法・関節運動の種類				
3	身体運動と力学		身体運動に関与する力・仕事と力学的エネルギー 人体における単一機会構造・運動の法則				
4	運動器の構造と機能		骨の構造と機能 関節の構造と機能・骨格筋の構造と機能				
5	神経の構造と機能1		神経細胞・末梢神経 中枢神経・感覚と知覚				
6	神経の構造と機能2		神経細胞・末梢神経 中枢神経・感覚と知覚				
7	運動感覚		運動の感覚 運動の制御機構				
8	反射と随意運動		反射 随意運動				
9	四肢の運動		上肢帯の運動 下肢帯の運動				
10	体幹の運動		頸椎・胸椎・腰椎の運動 顔面および頭部の運動				
11	姿勢		姿勢の分類 重心・立位姿勢				
12	歩行		歩行周期・歩行の運動学的分析 歩行時の筋活動				
13	運動発達		神経組織の成熟 乳幼児期の運動発達				
14	運動学習						
15	これまでの復習						
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	90%	受講態度	10%
					0%		0%
【教科書】(社)全国柔道整復学校協会 監修 運動学							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名:一般臨床医学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
山本 茂久	一般	高野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	金 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 柔道整復術は西洋医学とじゃ哲学、診断作法、治療法などが異なるため、これを直接応用することはできない。しかし、西洋医学の考え方を学習することで、将来のよりよい施術を実施するのに役立つことを理解する。					【受講して得られる力】 基礎学力		
【学習目標(到達目標)】 ①診断法を学ぶ。 ②判断する基礎力を習得する。 ③知識を理解し施術に役立てる。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	診察概論・医療面接		診察の意義、診察の進め方、医療面接の意義と方法				
2	視診		視診の意義と方法				
3	視診・打診・聴診		体各部位の視診 打診・聴診の意義と方法				
4	触診		触診の意義と方法				
5	生命徴候		体温、血圧、脈拍、呼吸				
6	感覚検査		感覚検査の意義				
7	反射検査		表在反射、深部反射、病的反射、クローヌス(間代) 自律神経反射				
8	代表的な臨床症状		発熱、出血傾向、リンパ節腫脹、意識障害、チアノーゼ、関節痛、浮腫 肥満、やせ				
9	検査法		生命徴候測定、生理機能検査、検体検査、運動機能検査				
10	呼吸器疾患 循環器疾患		総論、呼吸器各種疾患 総論、循環器各種疾患				
11	消化器疾患		総論、消化器各疾患				
12	代謝疾患 内分泌疾患		総論、糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝、代謝の各疾患 総論、内分泌器各疾患				
13	血液・造血管疾患 腎尿路疾患		総論、尿検査、血球検査、血液凝固、臨床化学検査、 内分泌検査、免疫検査、腫瘍マーカー、感染症関連				
14	神経疾患		総論、神経系各疾患				
15	感染症 その他		総論、感染症、性病 リウマチ性疾患、アレルギー性疾患、免疫不全症				
期末 試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	90%	受講態度	10%
					0%		0%
【教科書】(社)全国柔道整復学校協会 監修 一般臨床医学 医歯薬出版							
【参考書】内科学関連書籍							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】知識をより確実にする努力を常に心がける							
【本講義に関しての質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:病理学概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
挟間 章博	一般	國分	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	金 4	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 病気の原因の解明、病気がどうして生じるかの解明、病気による体の変化がどのようにして起こるかの解明する。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①病気を発生とそれに伴う体の変化を学習する。 ②各病気の内容を学習する。 ③国家試験を視野に病理学について学習する。					目標達成 問題解決力 忍耐力 基礎学力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	病理学の意義		脈管系の種類、動静脈の構造				
2	疾病(1)		健康と疾患と疾病の分類				
3	疾病(2)		病変と症候				
4	疾病(3)		病名・経過・予後・転帰				
5	退行性病変(1)		萎縮の種類				
6	退行性病変(2)		老化と壊死				
7	退行性病変(3)		死の定義と死の判定				
8	血液、リンパ液循環障害(1)		充血・うっ血・虚血・出血				
9	血液、リンパ液循環障害(2)		血栓症と梗塞				
10	血液、リンパ液循環障害(3)		リンパ液の循環障害。				
11	進行性病変(1)		進行性病変の定義、再生と化生				
12	進行性病変(2)		創傷治癒・組織内異物の処理と移植				
13	炎症(1)		炎症の一般と分類				
14	炎症(2)		炎症の一般と分類				
15	これまでの復習		復習とテストの説明				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 50% 受講態度 20%	授業への貢献	30% 0%	
【教科書】(社)全国柔道整復学校協会 監修 病理学概論							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: 老年学 I (生理的特徴と変化) (追加)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
挟間 章博	一般	國分	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	水 3	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 「老年学」とは、高齢者に特有な疾患などを研究対象とする老年医学、高齢者の社会諸問題を研究対象とする老年社会学および老化の機序などを研究対象とする基礎老化学を3つの柱とする総合人間学と言うべき学際的な学問を学ぶ。					【受講して得られる力】 コミュニケーション力 目標達成		
【学習目標(到達目標)】 ①高齢者や長寿社会に関し学ぶ。 ②自然科学から人文社会までの幅広い分野を総合的に学ぶ。 ③自然科学から人文社会までの幅広い分野を学際的に学ぶことを目標とする。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	老年学と老年医学		老年学と老年医学の概念 人口動態 老年医学の意義				
2	老化の機序(1)		老化の定義および老化学説 生理的老化と病的老化				
3	老化の機序(2)		老化度の判定				
4	老年病の臨床(1)		高齢者の主要な疾患 病態と疾患の一般的特徴 要介護にいたる疾患				
5	老年病の臨床(2)		高齢者の悪性腫瘍 老年病の臓器相関 多臓器不全 高齢者の生活指導				
6	老年病の臨床(3)		チーム医療のすすめ方 高齢者の看護 高齢者の介護 医原性疾患				
7	高齢者に特有な症候(1)		老年症候群 意識障害 失神 認知症 せん妄				
8	高齢者に特有な症候(2)		抑うつ 頭痛 不眠 めまい 手足のしびれ 言語障害				
9	高齢者に特有な症候(3)		腰痛 歩行障害 転倒・骨折				
10	高齢者に特有な症候(4)		尿失禁 便秘 寝たきり 廃用症候群				
11	高齢者に特有な症候(5)		褥瘡 脱水 浮腫 嚥下障害・誤嚥 吐血・下血				
12	高齢者の救急疾患と対策		心血管系疾患 脳血管障害 呼吸器疾患 消化器疾患				
13	高齢者の検査値の変化と意義		高齢者の基準値 異常値の評価				
14	高齢者の栄養		高齢者の栄養状態の特徴 栄養状況の評価 健康維持のための栄養				
15	高齢者薬物療法		高齢者の薬物動態と薬力学 薬物処方上の留意点 薬物評価 服薬指導				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	90%	受講態度	10%
					0%		0%
【教科書】							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名:外科学概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
山本 茂久	一般	高野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 膨大な外科学の内容のうち、特に外科学の総論を理解し、適切かつ合理的な施術を遂行できるようにするための正しい知識を習得する。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①損傷、炎症、腫瘍などの基本的な外科疾患について学習する。 ②基本的な外科疾患の診断法、治療法や出血について学習する。 ③国家試験を視野に外科学について学習する。					目標達成 問題解決力 忍耐力 基礎学力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	外科学とは、損傷		外科学の歴史・外科医の立場 損傷の分類・外傷の部位診断と重症度判定・交通外傷				
2	創傷・熱傷		創傷の治癒過程・創傷の処置と感染予防 熱傷の原因と分類・熱傷範囲の診断・深度				
3	炎症と外科感染症		炎症の定義・分類・外科感染症(丹毒・毛囊炎・腫瘍・蜂巣炎・ひょう疽 骨髄炎・結核・梅毒・真菌症・ガス壊疽)				
4	腫瘍(1)		概念・組織形成・成因(発癌)・分類 良性腫瘍の種類・悪性腫瘍の種類・腫瘍の発育形式				
5	腫瘍(2)		診断・治療・疫学				
6	ショック		循環血液量減少性ショック・心原性ショック 血液分布異常性ショック・ショックの緊急処置				
7	輸血、輸液		輸血の:基礎知識・輸血の適応・輸血の実際 輸液の基礎知識・輸液の定義・目的・適応・高カロリー輸液				
8	消毒と滅菌		主な消毒薬と特徴・皮膚の消毒 器械・器材・環境の消毒・滅菌				
9	手術		手術の分類 皮膚切開法・止血術・結紮縫合法・穿刺術				
10	麻酔(1)		概要・歴史・全身麻酔法・全身麻酔の導入・ 全身麻酔の術中管理・全身麻酔の合併症				
11	麻酔(2)		局所麻酔法(局所麻酔薬・表面麻酔・浸潤麻酔・伝達麻酔)				
12	移植と免疫		自家移植・同系移植・同種移植・異種移植 各種代表的臓器移植(腎・肝・心)				
13	出血と止血		出血の定義・出血の種類・止血の仕組み・ 外出血・血尿・内出血・止血法				
14	心肺蘇生法		心肺蘇生法の実際・AED(自動体外式除細動器)・ 救急蘇生法の連携				
15	これまでの復習		復習 テストの説明				
期末 試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	100%	0%	
					0%	0%	
【教科書】(社)全国柔道整復学校協会 監修 外科学概論 医歯薬出版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:スポーツ生理学(追加)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
勝田 新一郎	一般	國分	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	月 3	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 人体運動学の生理学的基礎を運動の一般的定義との比較を行い、人体の特性を考えたうえで、骨格系⇒骨格筋⇒筋の収縮機構⇒興奮収縮連関⇒筋収縮運動の神経調節という流れに沿ってスポーツ生理学を体系的に学ぶ。					【受講して得られる力】 状況判断力 目標達成		
【学習目標(到達目標)】 ①スポーツ生理学基礎を学ぶことを目標とする。 ② ③							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	運動の理解 (1)		物体はどのように動くか 運動学と力学 質点 速度				
2	運動の理解 (2)		ヒトの運動の性状 歩行と走行 体の重心 質量と重さ				
3	骨格系の機能 (1)		骨格系 体の面と運動軸				
4	骨格系の機能 (2)		力の合成と分解 関節の基本的構造 関節の種類				
5	骨格系の機能 (3)		骨の内部構造 力学的適応構造 骨のダイナミクス				
6	骨格筋の運動 (1)		骨格と筋 起始停止				
7	骨格筋の運動 (2)		伸筋 屈筋 拮抗筋 協調筋 白筋と赤筋				
8	骨格筋の運動 (3)		歩行 立位姿勢 力学的モーメント				
9	筋収縮 (1)		筋収縮パターン 筋の性質 筋収縮に伴う熱の発生				
10	筋収縮 (2)		ATP 筋の構造と収縮メカニズム				
11	筋収縮 (3)		生化学的アプローチ 収縮タンパク 分子メカニズム 収縮の抑制				
12	興奮と収縮の連関 (1)		骨格筋細胞の構造 筋細胞膜の電気生理学的特性 膜の脱分極と収縮の関係				
13	興奮と収縮の連関 (2)		興奮に伴う細胞内カルシウムの働き 筋収縮と小胞体の関係 細胞内カルシウムイオンの抑制				
14	筋収縮運動の神経性調節 (1)		筋の運動神経支配 脊髄反射 γ運動ニューロン 脊髄反射の抑制				
15	筋収縮運動の神経性調節 (2)		脳幹レベルでの反射 高位中枢と下行路 小脳と運動抑制 随意運動のメカニズム				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	90%	受講態度	10%
					0%		0%
【教科書】							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名:リハビリテーション概論

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
田邊 素子	一般	高野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	月 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 運動障害およびそれに関連する障害に対する評価方法を学び、様々な障害に対する回復へのリハビリテーションアプローチを学習する					【受講して得られる力】 目標達成		
【学習目標(到達目標)】 ①障害とリハビリテーションの概念を理解し、リハビリテーションの基礎となる運動学と機能解剖についての理解を深める。 ②患者のとらえ方と疾患の病態像を理解し、その機能的な評価方法とリハビリテーションの方法を知る。 ③							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	障害とリハビリテーションの概念		リハビリテーションの概念と歴史を知る 障害についての理解を深める				
2	障害のとらえ方		障害の3つのレベルと障害の受容過程を知る 国際生活機能分類(ICF)について、その概要を理解する				
3	運動学と機能解剖(1)		関節の運動について学ぶ 筋収縮とその作用を知る				
4	運動学と機能解剖(2)		運動のコントロールに関わる神経系を理解する 姿勢と歩行の運動学的なとらえ方を理解する				
5	運動学と機能解剖(3)		上肢の運動と機能解剖について学ぶ 下肢の運動と機能解剖について学ぶ				
6	障害学と治療学		関節拘縮・筋萎縮・神経麻痺について学ぶ 拘縮治療、筋力増強訓練、痛みの治療の概要を知る				
7	リハビリテーション医学における評価方法(1)		患者のとらえ方と身体計測方法を学ぶ 関節可動域の測定と徒手筋力テストについて学ぶ				
8	リハビリテーション医学における評価方法(2)		中枢性運動障害の評価方法について学ぶ 協調性テストと失認・失行の評価方法を知る				
9	リハビリテーション医学における評価方法(3)		日常生活活動の評価と心理評価の方法を知る 電気生理学的評価方法について学ぶ				
10	理学療法的アプローチ		運動療法、物理療法、徒手療法について学ぶ				
11	作業療法と言語療法		身体障害作業療法、精神科作業療法および言語療法について学ぶ				
12	リハビリテーションの実際(1)		脳卒中のリハビリテーションについて学ぶ				
13	リハビリテーションの実際(2)		虚血性心疾患のリハビリテーションについて学ぶ				
14	リハビリテーションの実際(3)		呼吸器疾患のリハビリテーションについて学ぶ				
15	学習のまとめ		リハビリテーション医療についての総まとめをする				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	90%	受講態度	10%
					0%		0%
【教科書】(社)全国柔道整復学校協会 監修「リハビリテーション医学」改訂第3版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:柔道Ⅱ

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
長沼 久・國分 義之	一般	國分	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	木 1	【授業形態・単位】	実習 1	
【授業の概要】 講道館柔道の目標とするところは、人格、精神の向上を技の向上よりも重んずることにある。柔道の修行は、攻撃防御の練習によって、己を完成し世を補益することが究極の目的である。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 忍耐力		
【学習目標(到達目標)】 ①柔道姿勢を学ぶ。 ②受身、組み手を学ぶ。 ③寝技・立技を修得する。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	受身 1		後方・前方・側方・前方回転受身 上記受身を正確に行なう。				
2	受身 2		後方・前方・側方・前方回転受身 上記受身を正確に行なう。				
3	寝技 1		正しい寝技を修得する。 寝技乱取を行う。				
4	寝技 2		正しい寝技を修得する。 寝技乱取を行う。				
5	立技 1		正しい立技を修得する。 正しい立技の投げ受けを習得する。				
6	立技 2		正しい立技を修得する。 正しい立技の投げ受けを習得する。				
7	立技 3		正しい立技を修得する。 正しい立技の投げ受けを習得する。				
8	投の形 1		手技 浮落の説明 手技 浮落の受・取を習得する。				
9	投の形 2		手技 背負の説明 手技 背負の受・取を習得する。				
10	投の形 3		手技 肩車の説明 手技 肩車の受・取を習得する。				
11	投の形 4		手技 浮腰の説明 手技 浮腰の受・取を習得する。				
12	投の形 5		手技 払腰の説明 手技 払腰の受・取を習得する。				
13	投の形 6		手技 釣込腰の説明 手技 釣込腰受・取を習得する。				
14	投の形 7		足技の説明				
15	これまでの復習						
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験	70%	受講態度	30%
					0%		0%
【教科書】							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】		科目責任者	【質問方法】	教員室にて			

授業名: 公衆衛生学

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
吉田 和樹	一般	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 医療関係として保健所の役割について					【受講して得られる力】 目標達成		
【学習目標(到達目標)】 ①医療と保健衛生との関わりについて学ぶ。 ②生活において健康とは何か?を学習する。 ③							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	衛生学の歴史と活動		衛生学・公衆衛生学の歴史 保健医療計画と行政				
2	健康の概念・管理		慢性疾患と生活 健康の測定				
3	感染症の予防		疾病予防とは? 感染症とは? 感染症の予防対策				
4	母子保健		母子保健の指標 母子健康行政				
5	消毒		消毒の意義 消毒の種類と方法				
6	環境保健		環境問題 公害・その他対策				
7	成人・老人保健		成人保健と老人保健				
8	精神保健		精神の病気 精神保健活動と原則				
9	生活環境・食品衛生活動		水の衛生、衣服、住居、食品の人体への影響 食品衛生活動				
10	地域保健と国際保健		地域保健、国際保健活動について 保健に関する国際協力と世界保健機構				
11	学校保健		学校保健の組織と運営 保健教育				
12	産業保健		労働災害・職業とその対策 現場における健康診断と健康増進				
13	衛生行政と保健医療制度		我が国の衛生行政機構の概要 国民医療費				
14	疫学		疫学とは? 疫学調査の手順と留意事項				
15	これまでの復習						
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	90%	受講態度	10%
					0%		0%
【教科書】全国柔道整復学校協会監修 衛生学・公衆衛生学 改訂第5版 南江堂							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: 社会保障制度(追加)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
菅原 好秀	一般	高野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	木 4	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 疾病、負傷、分娩、死亡、老齢その他困窮の原因に対して、保険あるいは公の負担で経済保障などを行うことで公衆衛生および社会福祉の向上を図り、国民が文化的生活を営めるような状況を理解する。					【受講して得られる力】 状況判断力 目標達成 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①社会保障制度のうち医療にかかわる制度を学び理解を目標とする。 ②社会福祉制度のうち福祉に関わる制度を学び理解を目標とする。 ③保険医療制度のうち保険に関わる制度を学び理解を目標とする。 ④社会保障制度の現状と課題を学び理解を目標とする。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	保険医療制度 (1)		医療保険制度について学ぶ。 老人医療制度について学ぶ。				
2	保険医療制度 (2)		医療扶助制度を理解する。 公費負担を理解する。				
3	保険医療制度 (3)		一般保健サービスについて学ぶ。 医療供給を理解する。				
4	保険医療制度 (4)		生活環境対策を理解する。 環境保全を理解する。				
5	保険医療制度 (5)		学校保険法について学ぶ。 労働衛生法について理解する。				
6	所得保障制度 (1)		社会保険の制度を理解する。 年金保険について学ぶ。				
7	所得保障制度 (2)		社会保険の現状について学ぶ。 雇用保険(失業給付)について学ぶ。				
8	所得保障制度 (3)		社会保険の課題について学ぶ。 労働者災害補償保険について学ぶ。				
9	所得保障制度 (4)		公的扶助制度について学ぶ。 生活保護制度について学ぶ。				
10	所得保障制度 (5)		所得保障制度の現状を理解する。 所得保障制度の課題と対策について学ぶ。				
11	所得保障制度 (6)		児童手当を理解する。 児童福祉法を学ぶ。				
12	社会福祉制度 (1)		生活保護の内容を理解する。 生活保護法を学ぶ。				
13	社会福祉制度 (2)		高齢者福祉を理解する。 介護保険を学ぶ。				
14	社会福祉制度 (3)		母子福祉の制度を理解する。 母子福祉の現状と課題を学ぶ。				
15	社会福祉制度 (4)		障害者福祉の制度を理解する。 障害者福祉の現状と課題を学ぶ。				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	80%	受講態度	20%
					0%		0%
【教科書】全国柔道整復学校協会監修 衛生学・公衆衛生学 改訂第5版 南江堂							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:職業倫理(追加)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
福 安喜	病院10年勤務 接骨院開業20 年経験	福	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	金 2	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 近年問題となっている柔道整復師による不正請求を根絶するために、不正請求の概要や療養費請求の仕組みについて学習する。					【受講して得られる力】 状況判断力 目標達成 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①なぜ職業を行ううえで倫理観が必要なのかを学習する。 ②広義において職業倫理が必要であることを意識する。 ③柔道整復師が業務を行う上で必要な職業倫理について学習する。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	ガイダンス		講義の進め方、評価方法、レポートについての説明。				
2	職業倫理とは		近年、職業倫理が重要視されるようになった背景について学習する。				
3	広義の職業倫理		様々な職業が倫理に反する行為を行った場合、自分や社会にどのような不利益が生じるか考える。社会の一員として、職業倫理観の重要性を意識する。				
4	柔道整復師の業務		柔道整復師が行える業務について、接骨院、デイサービス、病院などのケースごとに学ぶ。				
5	保険請求		医療保険、償還払い、受領委任払いについて学習する。 日本全体の医療費推移について学習する。				
6	柔道整復師の保険請求②		最近の柔道整復師の保険請求額や、全国の接骨院数の推移、 国家試験合格者の推移について学習する。				
7	柔道整復師を取り巻く社会環境		現在、柔道整復師を取り巻く社会環境や、不正請求の現状について 学習する。				
8	今後の柔道整復師としての在り方①		接骨院で正しく柔道整復師として活躍する先輩の例を紹介し、進路に ついて意識付ける。				
9	今後の柔道整復師としての在り方②		デイサービスで機能訓練指導員として活躍する先輩の例を紹介し、 進路について意識付ける。				
10	今後の柔道整復師としての在り方③		病院で柔道整復師として活躍する先輩の例を紹介し、進路について 意識付ける。				
11	今後の柔道整復師としての在り方④		卒業後、鍼灸師の資格を取得し活躍する先輩の例を紹介し、進路 について意識付ける。				
12	不正請求の根絶①		過去の不正請求の事例を元に、グループでディスカッションを行う。				
13	不正請求の根絶②		過去の不正請求の事例を元に、グループでディスカッションを行う。				
14	不正請求の根絶③		過去の不正請求の事例を元に、グループでディスカッションを行う。				
15	不正請求の根絶と今後の柔道整復師の在り方		柔道整復師を取り巻く厳しい社会状況と、活躍する先輩の例を元に、 今後どのように進むべきか、各個人で発表する。				
期末 試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	80%	受講態度	20%
					0%		0%
【教科書】							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: 柔道整復学特論Ⅱ(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	火 4	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 国家試験対策の一環として解剖学、柔道整復理論総論の復習および過去問の解説と分析をする。					【受講して得られる力】 状況判断力 目標達成 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験問題への対応力、解き方を学習する。 ②解剖学国家試験問題の出題傾向と対策を行なう。 ③柔道整復理論総論国家試験問題の出題傾向と対策を行なう。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	国家試験に関して		全教科通じての解き方と出題傾向について。 近年の出題傾向と勉強方法について。				
2	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 人体解剖学概説①				
3	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 人体解剖学概説②				
4	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 人体解剖学概説③				
5	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 筋肉①				
6	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 筋肉②				
7	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 筋肉③				
8	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 筋肉④				
9	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 骨①				
10	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 骨②				
11	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 骨③				
12	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 骨④				
13	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 神経①				
14	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 神経②				
15	解剖学 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 神経③				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト	10% 0%	
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: 柔道整復学特論Ⅱ(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	水 4	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 国家試験対策の一環として解剖学、柔道整復理論総論の復習および過去問の解説と分析をする。					【受講して得られる力】 状況判断力 目標達成 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①国家試験問題への対応力、解き方を学習する。 ②解剖学国家試験問題の出題傾向と対策を行なう。 ③柔道整復理論総論国家試験問題の出題傾向と対策を行なう。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	復習解剖学 国家試験対策		解剖学の総復習、小テスト				
2	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 骨折①				
3	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 骨折②				
4	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 骨折③				
5	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 骨折④				
6	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 脱臼①				
7	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 脱臼②				
8	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 脱臼③				
9	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 軟部組織損傷①				
10	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 軟部組織損傷②				
11	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 軟部組織損傷③				
12	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 治療法①				
13	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 治療法②				
14	柔道整復理論総論 国家試験対策		1年生の復習と過去問をベースに解き方を学ぶ。 総論 治療法③				
15	柔道整復理論総論 国家試験対策		柔道整復理論総論の総復習、小テスト				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト	10% 0%	
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:臨床柔道整復学Ⅱ(脱臼)(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 脱臼の概説、分類、整復法、固定法、後療法について知識を習得する。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①脱臼について基本的な内容を理解し、国家試験に対応できる知識を習得する。 ②脱臼の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ③脱臼の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。					状況判断力 目標達成 固定技術 問題解決力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	顎関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
2	頸椎脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
3	胸椎脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
4	胸鎖関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
5	肩鎖関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
6	肩関節前方脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
7	肩関節後方脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
8	肩関節上方脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
9	肩関節下方脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
10	反復性肩関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
11	前腕両骨脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
12	橈骨頭単独脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
13	肘内障		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
14	遠位橈尺関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
15	小テスト		総復習とまとめ				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80%	小テスト	10%	
				受講態度 10%		0%	
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:臨床柔道整復学Ⅱ(脱臼)(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	水 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 脱臼の概説、分類、整復法、固定法、後療法について知識を習得する。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①脱臼について基本的な内容を理解し、国家試験に対応できる知識を習得する。 ②脱臼の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ③脱臼の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。					状況判断力 目標達成 固定技術 問題解決力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	月状骨脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
2	手根中手関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
3	第1指中手指節関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
4	第1指以外の中手指節関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
5	近位指節間関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
6	遠位指節間関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
7	股関節後方脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
8	股関節前方脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
9	股関節中心性脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
10	膝蓋骨脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
11	膝関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
12	足部の脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
13	シヨパール関節脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
14	中足、足指部の脱臼		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
15	脱臼まとめ		総復習とまとめ				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト	10% 0%	
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識							
【本講義に関しての質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:臨床柔道整復学Ⅲ(骨折上肢)(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	前期・水 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 上肢骨折の概要、分類、症状、整復法、固定法、後療法についての知識を習得し、鑑別診断の理解も深める。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①骨折上肢について基本的な内容を理解し、国家試験に対応できる知識を習得する。 ②骨折上肢の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ③骨折上肢の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。					状況判断力 目標達成 固定技術 問題解決力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	鎖骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
2	鎖骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
3	肩甲骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
4	肩甲骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
5	上腕骨近位端部骨折 (骨頭、大結節、小結節、解剖頸)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
6	上腕骨近位端部骨折 (骨頭、大結節、小結節、解剖頸)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
7	上腕骨外科頸骨折、骨端線離開		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
8	上腕骨外科頸骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
9	上腕骨骨幹部骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
10	上腕骨骨幹部骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
11	上腕骨顆上骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
12	上腕骨顆上骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
13	上腕骨外顆骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
14	上腕骨内側上顆骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
15	上腕部骨折まとめ		総まとめ				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト	10% 0%	
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:臨床柔道整復学Ⅲ(骨折上肢)(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	後期・金 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 上肢骨折の概要、分類、症状、整復法、固定法、後療法についての知識を習得し、鑑別診断の理解も深める。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①骨折上肢について基本的な内容を理解し、国家試験に対応できる知識を習得する。 ②骨折上肢の各論について内容を理解し、対処法、整復法、固定法が行えるようにする。 ③骨折上肢の各論について内容を理解し、その他の外傷に対する治療法との違いを習得する。					状況判断力 目標達成 固定技術 問題解決力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	橈骨近位端骨折 (橈骨頭、橈骨頸部)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
2	肘頭骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
3	橈骨単独、ガレアジ、モンテギア骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
4	橈骨単独、ガレアジ、モンテギア骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
5	前腕両骨骨幹部骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
6	橈骨遠位端骨折 (コーレス、スミス)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
7	橈骨遠位端骨折 (コーレス、スミス)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
8	橈骨遠位端骨折 (ショーファー、バートン)		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
9	舟状骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
10	月状骨、その他手根骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
11	中手骨骨折、ベネット骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
12	基節骨、中節骨、末節骨骨折		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
13	マレットフィンガー		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
14	マレットフィンガー		概説、分類、症状、整復、固定などの理論を学ぶ。				
15	前腕～手指骨折まとめ		総まとめ				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 80%	小テスト	10%	
				受講態度		0%	
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:臨床柔道整復学Ⅳ(骨折下肢・体幹)(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
福 安喜	病院10年勤務 接骨院開業20 年経験	福	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	前期・木 2	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 体幹骨折と下肢の骨折の概要・分類・症状・整復法・固定法・後療法についての教科書に沿って学び理解する。					【受講して得られる力】 問題解決力 固定技術 考え抜く力		
【学習目標(到達目標)】 ①体幹骨折と下肢の骨折について学び国家試験問題への対応ができるよう知識を深める。 ②体幹骨折と下肢の骨折について学び各論について理解して対処法・整復法・固定法ができるようにする。 ③体幹骨折と下肢の骨折について学び各論について理解して鑑別診断ができるようにする。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	頭部・顔面部骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
2	頭部・顔面部骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
3	脊柱骨折 (頸椎、胸椎、腰椎)		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
4	脊柱骨折 (頸椎、胸椎、腰椎)		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
5	胸部骨折 (肋骨、胸骨)		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
6	胸部骨折 (肋骨、胸骨)		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
7	骨盤骨折 (単独骨折)		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
8	骨盤骨折 (輪骨折、マルゲーニュ骨折)		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
9	大腿骨近位端骨折 (骨頭、頸部)		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
10	大腿骨近位端骨折 (骨頭、頸部)		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
11	大腿骨近位端骨折 (大転子、小転子)		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
12	大腿骨骨幹部骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
13	大腿骨骨幹部骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
14	大腿骨遠位端部骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
15	大腿骨遠位端部骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
期末 試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	80%	受講態度	20%
					0%		0%
【教科書】柔道整復学・理論編 改定第6版							
【参考書】解剖学教科書、必要なプリント資料を配布する。							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書をよく読むこと							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:臨床柔道整復学Ⅳ(骨折下肢・体幹)(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
福 安喜	病院10年勤務 接骨院開業20 年経験	福	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	後期・木 1	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 体幹骨折と下肢の骨折の概要・分類・症状・整復法・固定法・後療法について教科書に沿って学び理解をする。					【受講して得られる力】 問題解決力 考え抜く力 固定技術		
【学習目標(到達目標)】 ①体幹骨折と下肢骨折にちいて学び国家試験問題への対応ができるよう知識を深める。 ②体幹骨折と下肢骨折について学び各論について理解して対処法、整復法、固定法ができるようにする。 ③体幹骨折と下肢の骨折を学び各論について理解をして鑑別診断できるようにする。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	膝蓋骨骨折・分裂膝蓋骨		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
2	下腿近位端骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
3	下腿近位端骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
4	下腿骨幹部骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
5	下腿骨幹部骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
6	果部骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
7	果部骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
8	果部骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
9	距骨骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
10	踵骨骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
11	舟状骨その他足根骨骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
12	中足骨骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
13	中足骨骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
14	足指骨折		概説、発生機序、分類、症状、整復、固定について学ぶ。				
15	体幹・下肢骨折そうまとめ		総まとめ				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	80%	受講態度	20%
					0%		0%
【教科書】柔道整復学・理論編 改定第6版							
【参考書】解剖学教科書、必要なプリント資料を配布する。							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書をよく読むこと							
【本講義に関しての質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: 柔道整復実技Ⅱ(脱臼)(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・水 3	【授業形態・単位】	実習 2
【授業の概要】 脱臼の症状、整復法、固定法を学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①転位方向を正確に理解し、整復操作を学習する。 ②固定肢位(角度)と再発予防に気をつける。 ③後療法プログラムを考える。					基礎学力 問題解決力 考え抜く力 問題解決力 固定技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	肩鎖関節脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
2	肩鎖関節脱臼		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
3	肩関節脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
4	肩関節脱臼		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
5	肘関節脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
6	肘関節脱臼		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
7	肘内障		症状、転位の確認、整復操作			
8	手指PIP関節脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
9	手指PIP関節脱臼		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
10	その他上肢の脱臼 (胸鎖関節、遠位橈尺関節)		症状、転位の確認、整復操作、固定			
11	その他上肢の脱臼 (月状骨、月状骨周囲脱臼)		症状、転位の確認、整復操作、固定			
12	その他上肢の脱臼 (手指MP、CM、DIP)		症状、転位の確認、整復操作、固定			
13	顎関節脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
14	顎関節脱臼		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
15	股関節脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定			
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 受講態度	80% 10%	授業への貢献 10% 0%
【教科書】 柔道整復学・実技編 改訂第2版						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学 運動器の基礎医学知識、柔道整復理論						
【本講義に関する質問先】 担当教員			【質問方法】 教員室にて			

授業名: 柔道整復実技Ⅱ(脱臼)(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	後期・火 2	【授業形態・単位】	演習・実習 2	
【授業の概要】 脱臼の症状、整復法、固定法を学ぶ。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①転位方向を正確に理解し、整復操作を学習する。 ②固定肢位(角度)と再発予防に気をつける。 ③後療法プログラムを考える。					基礎学力 問題解決力 考え抜く力 問題解決力 固定技術		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	膝関節、膝蓋骨脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定				
2	足関節脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定				
3	足部、足指脱臼		症状、転位の確認、整復操作、固定				
4	体幹、下肢脱臼まとめ		整復操作、固定の復習				
5	肩脱臼まとめ (肩鎖、肩関節)		整復操作、固定の復習				
6	肘脱臼まとめ (肘関節、肘内障)		整復操作、固定の復習				
7	手指脱臼まとめ (手関節、IP関節)		整復操作、固定の復習				
8	肩鎖関節脱臼復習+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認				
9	肩関節脱臼復習+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認				
10	肘関節脱臼復習+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認				
11	肘内障復習+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認				
12	手指PIP関節脱臼復習+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認				
13	脱臼ミックス練習		全脱臼の整復、固定について練習				
14	確認テスト		お題に沿って触診～固定まで行う				
15	総復習		各班苦手な脱臼の整復固定を復習				
期末 試験	実技試験		評価方法	実技試験 受講態度	80% 10%	授業への貢献 10% 0%	
【教科書】柔道整復学・実技編 改訂第2版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学 運動器の基礎医学知識、柔道整復理論							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: 柔道整復実技Ⅲ(骨折上肢)(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・火 4	【授業形態・単位】	実習 2
【授業の概要】 上肢骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①転位方向を正確に理解し、整復操作を学習する。 ②固定肢位(角度)と再発予防に気をつける。 ③後療法プログラムを考える。					基礎学力 問題解決力 考え抜く力 問題解決力 固定技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	鎖骨骨折		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
2	鎖骨骨折		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
3	上腕骨外科頸骨折		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
4	上腕骨外科頸骨折		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
5	コーレス骨折		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
6	コーレス骨折		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
7	第5中手骨骨折		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
8	第5中手骨骨折		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
9	上腕骨骨幹部骨折		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
10	上腕骨骨幹部骨折		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
11	上腕骨遠位端骨折 (上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折)		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
12	上腕骨遠位端骨折 (上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折)		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
13	橈骨近位端骨折、肘頭骨折		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
14	橈骨近位端骨折、肘頭骨折		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
15	テスト内容復習		テスト出題内容の練習を行う。			
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 受講態度	80% 10%	授業への貢献 0%
【教科書】 柔道整復学・実技編 改訂第2版						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学 運動器の基礎医学知識、柔道整復理論						
【本講義に関する質問先】 担当教員			【質問方法】 教員室にて			

授業名: 柔道整復実技Ⅲ(骨折上肢)(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・水 1	【授業形態・単位】	演習・実習 2
【授業の概要】 上肢骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①転位方向を正確に理解し、整復操作を学習する。 ②固定肢位(角度)と再発予防に気をつける。 ③後療法プログラムを考える。					基礎学力 問題解決力 考え抜く力 問題解決力 固定技術	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	前腕両骨骨幹部骨折		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成 症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
2	橈骨遠位端骨折 (ショーファー、バートン)		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
3	橈骨遠位端骨折 (ショーファー、バートン)		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
4	舟状骨骨折、月状骨、その他手根骨骨折		症状、転位の確認、整復操作、固定材料の作成			
5	舟状骨骨折、月状骨、その他手根骨骨折		固定法(テーピング、包帯)、後療法のプログラム作成			
6	肩骨折まとめ (鎖骨、上腕骨近位)		整復操作、固定の復習			
7	橈骨遠位端骨折まとめ (コーレス、スミス、バートン)		整復操作、固定の復習			
8	手指骨折まとめ (中手骨、基節骨、末節骨)		整復操作、固定の復習			
9	鎖骨骨折復習+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認			
10	上腕骨外科頸+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認			
11	コーレス骨折+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認			
12	第5中手骨骨折復習+口頭試問対策 (認定実技形式)		症状、転位、整復法、固定法の確認 口頭試問の内容確認			
13	骨折ミックス練習		全骨折の整復、固定について練習			
14	確認テスト		お題に沿って触診～固定まで行う			
15	総復習		各班苦手な骨折の整復固定を復習			
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験 受講態度	80% 10%	授業への貢献 10% 0%
【教科書】 柔道整復学・実技編 改訂第2版						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 解剖学 運動器の基礎医学知識、柔道整復理論						
【本講義に関する質問先】 担当教員			【質問方法】 教員室にて			

授業名: 柔道整復実技Ⅳ(骨折下肢・体幹)(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2
福 安喜	病院10年勤務 接骨院開業20 年経験	福	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	実習 2
【授業の概要】 体幹骨折と下肢部骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。					【受講して得られる力】 状況判断力 固定技術 コミュニケーション力 協調性の向上 考え抜く力	
【学習目標(到達目標)】 ①骨片転位を理解し徒手整復を行う。 ②骨片転位を理解して固定肢位を行う。 ③後療法のプログラムについて学ぶ。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	肋骨骨折	肋骨骨折	症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成			
2	肋骨骨折	肋骨骨折	固定(手ーピング・包帯) 後療法のプログラムの作成			
3	大腿骨骨幹部骨折	大腿骨骨幹部骨折	症状、転位の確認 整復操作			
4	大腿骨骨幹部骨折	大腿骨骨幹部骨折	固定材料の作成 固定 後療法のプログラムの作成			
5	第5中足骨基部裂離骨折		症状、転位の確認 整復操作 固定材料の作成			
6	第5中足骨基部裂離骨折	第1趾基節骨骨折	固定 後療法のプログラムの作成 症状、転位の確認、整復操作			
7	第1趾基節骨骨折	第1趾基節骨骨折	固定材料の作成 固定 後療法のプログラムの作成			
8	松葉づえ	松葉づえ	調節のしかた 接地部のつきかた。 平地の歩き方			
9	松葉づえ	松葉づえ	階段の昇りかた・降りかた 松葉づえで校舎内を実際に歩く。			
10	肋骨骨折復習口頭試問対策	肋骨骨折復習口頭試問対策	症状、転位、整復法、固定法の確認 肋骨骨折のキーポイントをまとめる。			
11	大腿骨骨幹部骨折復習口頭試問対策	大腿骨骨幹部骨折復習口頭試問対策	症状、転位、整復法、固定法の確認 大腿部骨幹部骨折のキーポイントをまとめる			
12	第5中足骨基部裂離骨折復習口頭試問対策	第5中足骨基部裂離骨折復習口頭試問対策	症状、転位、整復法、固定法の確認 第5中足骨骨折のキーポイントをまとめる。			
13	第1趾基節骨骨折復習口頭試問対策	第1趾基節骨骨折復習口頭試問対策	症状、転位、整復法、固定法の確認 第1趾基節骨骨折のキーポイントをまとめる。			
14	確認テスト	確認テスト	出題に答える。触診、固定 出題に答える。触診、固定			
15	総復習	総復習	各グループで復習 各グループで復習			
期末試験	実技試験		評価方法	実技試験	80%	0%
				受講態度	20%	0%
【教科書】柔道整復学・実技編 改定第2版						
【参考書】解剖学教科書						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 転位方向正しく理解し整復操作をする。						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

授業名: 柔道整復実技Ⅳ(骨折下肢・体幹)(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
福 安喜	病院10年勤務 接骨院開業20 年経験	福	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	実習 2	
【授業の概要】 体幹骨折と下肢部骨折の症状、整復法、固定法を学ぶ。					【受講して得られる力】 状況判断力 固定技術 コミュニケーション力 協調性の向上 考え抜く力		
【学習目標(到達目標)】 ①骨片転位を理解し徒手整復を行う。 ②骨片転位を理解して固定肢位を行う。 ③後療法のプログラムについて学ぶ。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	肋骨骨折	肋骨骨折	症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成				
2	肋骨骨折	肋骨骨折	固定(テーピング・包帯) 後療法のプログラムの作成				
3	大腿骨骨幹部骨折骨折	大腿骨骨幹部骨折骨折	症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成				
4	大腿骨骨幹部骨折骨折	大腿骨骨幹部骨折骨折	固定材料の作成 固定・後療法のプログラムの作成				
5	第5中足骨基部裂離骨折	第5中足骨基部裂離骨折	症状、転位の確認 整復操作、固定材料の作成				
6	第5中足骨基部裂離骨折	第1趾基節骨骨折	固定 後療法のプログラムの作成 症状、転位の確認、整復操作				
7	第1趾基節骨骨折	第1趾基節骨骨折	固定材料の作成 固定、後療法のプログラムの作成				
8	松葉づえ	松葉づえ	調節のしかた 接地部のつきかた 平地の歩きかた				
9	松葉づえ	松葉づえ	階段の昇りかた 降りかた 松葉づえで校舎内を実際に歩く				
10	肋骨骨折復習口頭試問対策	肋骨骨折復習口頭試問対策	症状、転位、]整復法を確認 肋骨骨折のキーポイントをまとめる				
11	大腿骨骨幹部骨折復習口頭試問	大腿骨骨幹部骨折復習口頭試問	症状、転位、整復法を確認 大腿骨骨幹部骨折のキーポイントをまとめる				
12	第5中足骨基部裂離骨折復習口頭試問対策	第5中足骨基部裂離骨折復習口頭試問対策	症状、転位、整復法を確認 第5中足骨骨折のキーポイントをまとめる				
13	第1趾基節骨骨折復習口頭試問対策	第1趾基節骨骨折復習口頭試問対策	症状、転位、整復法を確認 第1中足骨骨折のキーポイントをまとめる				
14	確認テスト	確認テスト	出題に答える 触診 固定 出題に答える 触診 固定				
15	総復習	総復習	各グループで復習 各グループで復習				
期末 試験	実技試験		評価方法	実技試験 受講態度	80% 20%	0% 0%	
【教科書】柔道整復学・実技編 改定第2版							
【参考書】解剖学教科書							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名: 老年学Ⅱ(外傷予防)(追加)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
高野 正和	一般	高野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	金 1	【授業形態・単位】	実習 1	
【授業の概要】 老年学の内容について学び、柔道整復師との関連と高齢者特有の外傷に対し、対応できるようにする。					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①老年学の要点を学ぶ。 ②高齢者特有の外傷や疾患を学ぶ。 ③高齢者に柔道整復術、外傷の治療をするにあたり注意点や正しい行い方を学ぶ。					基礎学力 問題解決力 考え抜く力 状況判断力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	老年学とは		加齢、老化の概念について学ぶ。				
2	高齢者の特徴		高齢者の身体的特徴と経時的変化について、若年者や小児と対比し学ぶ。				
3	廃用性症候群		筋萎縮、筋力低下について学ぶ。				
4	廃用性症候群		骨粗鬆症、骨萎縮について学ぶ。				
5	高齢者特有の外傷		骨粗鬆症、下肢筋萎縮由来の脊椎圧迫骨折、橈骨遠位端骨折の発生メカニズムを学ぶ。				
6	高齢者特有の外傷		骨粗鬆症、下肢筋萎縮由来の大腿骨頸部骨折、上腕骨外科頸骨折の発生メカニズムを学ぶ。				
7	各外傷の治療		脊椎圧迫骨折の治療法と治療に際しての注意点を学ぶ。				
8	各外傷の治療		橈骨遠位端骨折の治療法と治療に際しての注意点を学ぶ。				
9	各外傷の治療		大腿骨頸部骨折の治療法と治療に際しての注意点を学ぶ。				
10	各外傷の治療		上腕骨外科頸骨折の治療法と治療に際しての注意点を学ぶ。				
11	各外傷の治療		骨折以外に高齢者に多発しやすい外傷の治療に際しての注意点を学ぶ。				
12	整形外科での高齢者治療		整形外科で行われる薬物治療を組み合わせた高齢者の外傷治療について学ぶ。				
13	小テスト		老年学について理解度を確認する。				
14	人口の高齢化への対応		近年の高齢者に対する治療の概念や人口傾向を学ぶ。				
15	老年学まとめ		総復習とまとめ				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験	80%	レポート	10%
				受講態度	10%		0%
【教科書】柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】老年看護学概論 老年看護学Ⅰ、標準整形外科学 第13版/井樋栄二							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識。高齢者4大骨折の柔道整復理論。							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:柔道整復術の適応(追加)(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	金 3	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 各外傷や疾患に対し柔道整復師が行う柔道整復術の適応を学ぶ。					【受講して得られる力】 状況判断力 問題解決力	
【学習目標(到達目標)】 ①柔道整復術について習得する。 ②柔道整復術が適応する外傷、適応しない疾患について学ぶ。 ③各外傷や疾患に対し適応のボーダーラインを学ぶ。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	柔道の起源		柔道の歴史について学ぶ。			
2	柔道整復師の起源		柔道整復師の歴史について学ぶ。			
3	柔道整復術の起源		柔道整復術の歴史について学ぶ。			
4	柔道整復術各論(上肢)		上肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。			
5	柔道整復術各論(上肢)		上肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。			
6	柔道整復術各論(上肢)		上肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。			
7	柔道整復術各論(上肢)		上肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。 復習			
8	柔道整復術各論(上肢)		上肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。			
9	柔道整復術各論(上肢)		上肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。			
10	柔道整復術各論(上肢)		上肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。			
11	柔道整復術各論(上肢)		上肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。			
12	柔道整復術各論(上肢)		上肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。			
13	柔道整復術各論(上肢)		上肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。			
14	柔道整復術各論(上肢)		上肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。			
15	前期まとめ		柔道整復術の歴史～柔道整復術各論(上肢)について復習する。			
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 レポート	70% 20%	小テスト 0%
【教科書】医療の中の柔道整復、柔道整復学・理論編 改訂第6版						
【参考書】病気がみえるvol.11運動器・整形外科						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識						
【本講義に関しての質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		

授業名:柔道整復術の適応(追加)(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
高野 正和	整形外科 5年勤務	高野	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)	
			【曜日・コマ】	金 4	【授業形態・単位】	講義 2	
【授業の概要】 各外傷や疾患に対し柔道整復師が行う柔道整復術の適応を学ぶ。					【受講して得られる力】 状況判断力 問題解決力		
【学習目標(到達目標)】 ①柔道整復術について習得する。 ②柔道整復術が適応する外傷、適応しない疾患について学ぶ。 ③各外傷や疾患に対し適応のボーダーラインを学ぶ。							
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	前期復習と下肢解剖		前期学習内容を復習し、下肢解剖学の知識を確認する。				
2	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。				
3	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。				
4	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。				
5	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。				
6	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。				
7	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。 復習				
8	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。				
9	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。				
10	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。				
11	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。				
12	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。				
13	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。				
14	柔道整復術各論(下肢)		下肢の整形外科疾患に関する柔道整復術と適応の可否について学ぶ。				
15	総まとめ		前期学習内容～後期学習内容について復習する。				
期末試験	筆記試験		評価方法	筆記試験 レポート	70% 20%	小テスト 0%	
【教科書】医療の中の柔道整復、柔道整復学・理論編 改訂第6版							
【参考書】病気がみえるvol.11運動器・整形外科							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学、生理学などの基礎医学知識							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:臨床実習Ⅱ(1/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2	
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	23(45)	
			【曜日・コマ】	前期・月 2	【授業形態・単位】	実習 1	
【授業の概要】 臨床現場で柔道整復師として必要な知識および技術を学ぶ					【受講して得られる力】		
【学習目標(到達目標)】 ①問診、視診、触診を身に付ける ②症例のキーワードから疾患を導き出す ③患者にあった治療、指導管理を考える					状況判断力 固定技術 コミュニケーション力 協調性の向上 考え抜く力 問題解決力		
【履修上の注意】							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	診察		診察時の注意点 診察手順 診察時期による分類				
2	足関節の構造・機能		足関節のテーピング				
3	膝関節の構造・機能		膝関節のテーピング				
4	胸郭出口症候群①		症例から疾患を導き出す 胸郭出口症候群の説明				
5	胸郭出口症候群②		絞扼部位の確認 治療法 指導管理				
6	肩関節周囲炎①		症例から疾患を導き出す 肩関節周囲炎の説明				
7	肩関節周囲炎②		治療法 指導管理				
8	内側上顆炎①		症例から疾患を導き出す 内側上顆炎の説明				
9	内側上顆炎②		損傷部位の確認 治療法 指導管理				
10	外側上顆炎①		症例から疾患を導き出す 外側上顆炎の説明				
11	外側上顆炎②		損傷部位の確認 治療法 指導管理				
12	後十字靭帯損傷①		症例から疾患を導き出す 後十字靭帯損傷の説明				
13	後十字靭帯損傷②		損傷部位の確認 治療法 指導管理				
14	前十字靭帯損傷・内側側副靭帯損傷		症例から疾患を導き出す 前十字靭帯・内側側副靭帯損傷の説明				
15	前十字靭帯損傷・内側側副靭帯損傷		損傷部位の確認 治療法 指導管理				
期末 試験	評価方法		レポート	60%	授業への貢献	20%	
			受講態度	20%		0%	
【教科書】柔道整復学・実技編 改訂第2版							
【参考書】							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

授業名:臨床実習Ⅱ(2/2)

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	MS柔道整復学科	【学年】	2
斑目 真司	接骨院 3年勤務	斑目	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	23(45)
			【曜日・コマ】	後期・月 3	【授業形態・単位】	実習 1
【授業の概要】 臨床現場で柔道整復師として必要な知識および技術を学ぶ					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①問診、視診、触診を身に付ける ②症例のキーワードから疾患を導き出す ③患者にあった治療、指導管理を考える					状況判断力 固定技術 コミュニケーション力 協調性の向上 考え抜く力 問題解決力	
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	腸脛靭帯炎①		症例から疾患を導き出す 腸脛靭帯炎の説明			
2	腸脛靭帯炎②		損傷部位の確認 治療法 指導管理			
3	半月板損傷①		症例から疾患を導き出す 半月板損傷の説明			
4	半月板損傷②		損傷部位の確認 治療法 指導管理			
5	前距腓靭帯損傷①		症例から疾患を導き出す 前距腓靭帯損傷の説明			
6	前距腓靭帯損傷②		損傷部位の確認 治療法 指導管理			
7	足底腱膜炎		足底腱膜炎の説明 治療法 指導管理			
8	外反母趾		外反母趾の説明 治療法 指導管理			
9	患者役①		患者役への問診～指導管理まで			
10	患者役②		患者役への問診～指導管理まで			
11	患者役③		患者役への問診～指導管理まで			
12	患者役④		患者役への問診～指導管理まで			
13	患者役⑤		患者役への問診～指導管理まで			
14	患者役⑥		患者役への問診～指導管理まで			
15	患者役⑦		患者役への問診～指導管理まで			
期末 試験	評価方法		レポート	60%	授業への貢献	20%
			受講態度	20%		0%
【教科書】柔道整復学・実技編 改訂第2版						
【参考書】						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】		
				教員室にて		